

海蔵寺 (曹洞宗)

薩摩藩士平田鞠負以下24義士の墓所がある。宝暦3年(1753)幕府は木曾三川治水工事を薩摩藩に命じた。平田鞠負ほか総勢2000名で110KM及ぶ堤防、輪中整備したが予算9倍(270万両)自害者53名、病死32名を出す難工事。平田鞠負は工事完了後責任を取って切腹した。

本統寺 (東本願寺桑名別院)

かつて徳川家茂や明治天皇が泊った由緒ある寺境内に芭蕉が"野ざらし紀行"で詠んだ句碑がある。
"冬牡丹千鳥よ雪のほととぎす"

浄土寺

関ヶ原合戦後桑名城主となった本多忠勝(平八郎)と殉死した中根忠、梶勝忠の墓がある。忠勝は城郭の拡張整備に尽くす。慶長15年(1610)63歳桑名で没する。分骨良玄寺(千葉県大多喜)寺は度重なる火災に遭う。最近では1991年今仮堂宇。

船津屋 (大塚本陣跡)

大塚家は本陣の他に美濃米の回船問屋も営む明治元年(1868)明治天皇駐泊。その後料亭船津屋に変わる。泉鏡花は明治42年船津屋に一泊、"歌行灯"を書き上げる。後に戯曲化した久保田万太郎が詠んだ句碑が船津屋表塀に建てられている。

"かわをそに 火をむすまれて あげやすき"

桑名城址 (九華公園)

鎌倉時代初期、桑名三郎行綱が最初に築いたといわれ、関ヶ原合戦後本多忠勝が城郭の拡張、町割を整備。元和3年(1617)本多が姫路に移封の後松平定勝(家康の異父弟)が移る。本丸址に鎮国守国神社、戊辰戦争の桑名藩士の記念碑がある。

春日神社(祭神天津彦根命他)

豪族といわれる桑名首を祀ったのが桑名神社正応2年(1289)中臣神社が遷座し永仁6年(1298)春日明神を合祀。桑名の総鎮守社。桑名宗社とも言われている。寛文7年(1667)城主松平定重が寄進した青銅の鳥居が有名。

光徳寺 (浄土宗)

万古焼の開祖沼波弄山の墓がある。(県史跡)

十念寺 (浄土宗)

森陳明の墓所がある。森は桑名藩主松平定敬の側近として京都について行き幕府側として新政府に対抗、その責を負って刑死(切腹)した。

寿量寺 (日蓮宗)

狩野永徳の子光信の墓がある。江戸から京に帰る途中ここで急死。山門左無名の五輪石。

東海道:01 船場町(桑名市)一朝日町柿

桑名宿(熱田から海上7里江戸から42番目の宿)
桑名は木曾三川の河口に位置したことで尾張、美濃、伊勢の穀物、木材の集散地として発展。室町時代には「十楽の津」といわれ自由な商取引が行われていた江戸時代に入り宿場町、城下町、港町として発展した。本陣2、脇本陣4、問屋1、旅籠120:天保14年(1843)名物時雨蛤、富田・小向は焼き蛤

天武天皇社(祭神天武天皇他)

壬申の乱(672)大海皇子は不破へ向う途中桑名の郡家に宿泊されたと言うその場所に創建。

神館神社(天照皇大神他)

天照大神の鎮座の地探して倭姫命大和からこの地巡幸の時休憩所が建てられるその跡に神領の神明社が建てられる。

真光寺 (浄土真宗)

明暦3年(1657)桑名藩主松平定良が湯治の有馬温泉から帰途急死。町屋川が洪水で川止めとなりこの寺で三日間遺体安置。子定重が返礼に贈った梅鉢家紋入りの手水鉢がある。

